

第82回アブダクション研究会開催のご案内

アブダクション研究会

世話人 福永征夫
TEL & FAX 0774-65-5382
E-mail : jrdf117@ybb.ne.jp

事務局 岩下幸功
TEL&FAX 042-356-3810
E-mail : yiwashita@syncreate.jp

第82回アブダクション研究会の開催について、下記の通りご案内を申し上げます。

(1) 第81回アブダクション研究会のご報告をします

◆11・11・26(土)に開催致しました前回の第81回アブダクション研究会は、インターフェロン・ハープ研究所との合同開催で、記念講演として実施し、小島保彦氏(インターフェロン・ハープ研究所)に『インターフェロンの発見から半世紀を経過して』というテーマで、免疫学の栄えある1ページを飾る研究の事績についてお話をいただきました。

◆当日は多数の皆様のご出席を得て、講演会、懇親会ともに、大変な盛況でした。
先ずは、講演者と出席の皆様に心からお礼を申し上げます。

◆インターフェロンの発見は1957年のアイザックス(英)によるものとされて来ましたが、近時では、国際的にも国内的にも、1954年に東京大学伝染病研究所(現医科学研究所)の長野泰一・小島保彦によって達成された発見の方が先行していたことが認められる様になって来ています。日本の関係学会でも、先年、小島保彦先生を招いて顕彰する記念行事を行なっています。

◆講演の内容は、①ウィルス抑制因子の発見に至る経緯 ②健康と免疫の防衛システム ③漢方生薬からのインターフェロン・インデューサーの発見とその効用 の三つの部分から成り立ち、先駆的な研究の重要な意義や、研究者の熱き情熱と迫力が伝わって来る、すばらしい内容でありました。

◆お話では、インターフェロン発見の本質に関わる、以下の「基本4図表」を始めとして、32枚の図表データを用いた具体的で明快な説明がなされ、聴講者の理解を確かなものにしました。

1. 牛痘(ワクシニア)のウィルス粒子と上澄みのウィルス阻止効果
2. 干渉によるウィルス阻止効果と中和抗体によるウィルス阻止効果
3. PH7.8のケースでの抑制因子の電気泳動
4. 腹腔内におけるインターフェロン産生とマクロファージ、多核白血球、リンパ球の動向

◆この記念講演は、私達の知識の記憶に刻印されるだけでなく、社会と共に共有されるべき時代の重要な記録の一つとして残さなければならぬものとなります。

◆世話人が行う講演の記録の取りまとめには、時間を要します。まとまり次第、この案内状を差し替える形で、皆様に配布を致します。

(2) 各界、各分野の皆様の積極的なご参加をお願いします

既存の領域的な知識をベースにして、新たな領域的な知識を探索し、それらを広域的な知識に組み換えて、より高次の領域的な知識を仮説形成的に創造することを目標に、アブダクション研究の飛躍を期して参りますので、各界、各分野の皆様の積極的なご参加をお願いします。

(3) アブダクション研究会は、知識の広域化と高次化を目指し進化を続けて参ります

1996年に設立されたアブダクション研究会は、地球規模の難題に真正面から対処するために、知識の広域化と高次化を目指し、いつまでも、真摯に、勇気を持って、粘り強く、積極的に、可能性を追求し、多様な探究を積み重ねて、一步一步進化を続けて参ります。

(4) 発表をしてみたいテーマのご希望があれば、世話人宛に積極的にお申し出下さい

皆様には、今後に、ぜひとも発表をしてみたいテーマのご希望があれば、世話人宛に積極的にお申し出をいただきたく、お願いを申し上げます。お申し出は、通年的にいつでも、お受け入れを致します。上記の方向に沿うものなら、いかなる領域に属するいかなるテーマであっても、将来の可能性として、誠意を持って相談をさせていただき、実現に向けて調整を果たす所存であります。

記

◇ 日時： 2012年1月28日(土) 13:00~17:00(例会)
17:15~19:15(懇親会)

◇ 場所： 日本電気企業年金会館 1階会議室 (中山氏のお名前で申し込み)
東京都 世田谷区 代沢5丁目33-12 電話：03-3413-0111(代)

* 当日の連絡先(岩下幸功・携帯電話) 070-5541-4742

* 小田急線/京王・井の頭線 下北沢駅 下車 徒歩約8分

* 会場の地図は、グループメールのブリーフケース内「下北沢 NEC 厚生年金基金会館MAP」に記載。
<http://groups.yahoo.co.jp/group/abduction/files/>

◇ テーマ:

『「自らをイノベートせよ！」——P・F・ドラッカーの最新にして最後の言葉に学ぶ——』(仮題)

山田善教氏

(システム自動化研究所)

◆ 文 献 ◆

1. 「ドラッカーの遺言」(06・講談社)
2. 「知の巨人ドラッカーの自伝」(09・日経ビジネス人文庫)

◇プログラム:

- | | | |
|---------------|----------------------|-------------|
| (1) 諸連絡: | | 13:00~13:10 |
| (2) 研究発表: | [PART-I] | 13:10~14:25 |
| | <小休止> | 14:25~14:30 |
| | [PART-II] | 14:30~15:45 |
| | <小休止> | 15:45~15:50 |
| (3) 総合的な質疑応答: | | 15:50~16:50 |
| (4) 諸連絡: | | 16:50~17:00 |
| (5) 懇親会: | <皆様の積極的なご参加を期待しています> | 17:15~19:15 |

第82回 アブダクション研究会(1/28)の出欠連絡

●1/23(月)までの返信にご協力下さい。ご連絡なしの当日出席も無論可ですが、会場や資料の準備の都合もありますので、できるだけ、ご協力くださるようお願いいたします。

FA X: 042-356-3810

E-mail: abduction-owner@yahogroups.jp

岩下 幸功 行

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| ●1/28(土)の研究会に、未定ですが調整します。 | ●懇親会に、未定ですが調整します。 |
| 出席 | 出席 |
| 欠席 | 欠席 |

☆ 出欠の連絡は、グループメールメニューの「投票」コーナーから行うこともできます。

<http://groups.yahoo.co.jp/group/abduction/polls>

*次々回 2012年3月度の第83回アブダクション研究会は、2012年3月31日（土）に
NEC企業年金会館・1階会議室で、開催します。

*3月度の研究会は、富田 洋平 氏 氏 (ESPCI Paris Tech) に
『人の心と人工知能—— BEN・GOERTZEL 「THE HIDDEN PATTERN」 に学ぶ——
(仮題) 』のテーマで、ご発表をいただきます。

*文献 : 「THE HIDDEN PATTERN」 (06・Brown Walker Press)

*大いにご期待をいただき、奮ってご参加ください

<定例アンケート調査>

もしご協力がいただければ、という趣旨であり、必須ではありません。

皆様のメッセージ集として他の会員にも伝達しますので、情報の交流に積極的に参画下さい。

- (1) 今、アブダクションの研究・実践と関連のある事項で特に興味をもって取り組んでおられること。
- (2) 研究会の議論の場を通して INTERSECTIONAL なアイデアや知見の INCUBATION が進んでおり、例会で発表したいと思っておられること。
- (3) これまで（第1回～第81回）の研究発表やなされた議論（「議事録」を参照下さい）に関して、さらに改めて質疑や意見を表明したいと考えておられること
- (4) アブダクションの観点から、注目すべき人・研究グループ・著書（古今東西不問）。
- (5) 細分化された「知」の再構築を図るという視点から、注目すべき人・研究グループ・著書（古今東西不問）。
- (6) 貴方ご自身がお考えになられている「知」の定義とは？
- (7) その他のご意見、ご要望、連絡事項など。
特に他学会・研究会での発表内容や発表論文等についても是非お知らせ下さい。

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....